

三田市議会議長 森本政直 様

本会派は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	盟政会		代表者 議員名	福田 秀章
派遣者氏名	福田秀章 今北義明 幸田安司 小杉崇浩 森本政直 (全国市議会議長会定期総会出席のため 21 日御殿場市のみ参加)			
視 察 先	① 静岡県御殿場市 ② 静岡県富士宮市			
調 査 事 項 (調査目的)	① 富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏について ② フードバレー構想について			
日 時	令和 6年 5月 21日 (火曜日) ~ 令和 6年 5月 22日 (水曜日)			
支払金内訳	科 目	支 出 額	摘 要	
	宿泊料	√67,500	13,500 円×5 名分×1 泊分=67,500 円	
	日 当	√24,000	3,000 円×4 人×2 日分=24,000 円 ※森本議長分の日当は議会費(旅費)より支払い	
	鉄 道 賃 等	√128,110	5月21日(火)	
			【三田駅→御殿場駅】JR 乗車券 8,360 円×5 人=41,800 円 特急券 5,360 円×5 人=26,800 円	
			【御殿場駅→富士宮駅】JR 乗車券 990 円×5 人=4,950 円 【富士宮駅→富士宮市役所】タクシー 660 円×1 台=660 円	
【富士宮市役所→富士宮駅】タクシー 890 円×2 台=1,780 円				
5月22日(水)		【富士宮駅→富士宮市役所】タクシー 750 円 【富士宮市役所→ここずらよ】タクシー 930 円 【ここずらよ→富士宮駅】タクシー 800 円 ※特産品販売所ここずらよは視察の一環として立ち寄り		
その他	√5,400	お土産代 2,700 円×2 カ所		
合 計	√225,010			
備 考	別紙(領収書あり)			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和 6 年 7 月 9 日

三田市議会議長 森本政直 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	盟政会	代 表 者	福田 秀章
		議 員 名	
派遣者氏名	福田秀章・今北義明・森本政直・幸田安司・小杉崇浩		
視 察 先	① 静岡県御殿場市 ② 静岡県富士宮市		
調査事項 (調査目的)	① 富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏について ② フードバレー構想について		
日 時	令和6年5月21日（火曜日）～令和6年5月22日（水曜日）		
視察先対応者	① 静岡県御殿場市 佐藤哲治（企画戦略部 企画課 課長） 中村大輝（企画戦略部 企画課 企画調整スタッフ） 勝間田幹也（御殿場市議会議員総務委員長） ② 静岡県富士宮市 植松正和（産業振興部 農業政策課 食のまち推進室 室長） 望月昌宏（産業振興部 農業政策課 食のまち推進室 主査）		
添付資料	当日配布資料添付 当日写真		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、派遣者氏名は不要）

調査日時

令和6年5月21日（火曜日）13:30～15:00

視察先 静岡県御殿場市

調査事項 富士山東麓エコガーデンシティ地域循環共生圏について

（調査結果の概要）

【視察先概要】

人口：82,496人（2024年5月1日）

面積：194.90 km²

【説明並びに意見交換】

資料に基づき説明（添付資料参照）をいただいた後、意見交換を行った。意見交換には、御殿場市議会総務委員長の勝間田幹也議員もご参加くださいました。

●意見交換（主な内容）

盟政会議員（以下、議員）：

Jクレジットを活用することだが、森林経営計画を国が認めてくれないといけないと思われるが、それはかなり難しいのではないか？

御殿場市職員（以下、職員）：

森林経営計画が策定されていることが大前提である。御殿場市の特色であり、歴史的な側面によるものであるが、旧町村による財産区として長年森林管理に長年携わってくださっており、森林経営計画を立てて進めてきた経緯がある。すでにこの計画があるので、国への申請もしやすい状況にあった。

議員：林業で採算を合わせるのはとても難しく、森林組合が成り立っているだけでもすごいことだと思う。三田市は保安林が多く、木を切るのにも許可がいる。循環型にしていきたい気持ちはあるが、持ち出しばかりで、進めることができていない。

職員：Jクレジットは、林業での収入に上乗せできるので、さらに増収につながることになる。

議員：森林環境税はどのように使っているか。

職員：木育に活用しようとしている。地元産材「ごてんばっ木（こ）」の普及に力を入れている。

議員：市内に林業事業者は何者あるか。

職員：少なくとも数社ある。

御殿場市議会議員：御殿場市は特殊な事情がある。財産区は自衛隊の演習場に土地を貸して収入を得ている。財産区は、管理を森林組合に委託しているため、収入が安定している。財産区は撫育管理か山を買うくらいしかお金の使い道がないため、市に繰り出して、財産区住民の福祉に使ってもらおうようにしている。

議員：自衛隊の演習場の面積は？

職員：8800ヘクタール位はある。

御殿場市議会議員：また、御殿場市にはおもちゃ美術館を建設する予定があり、それも地元産材を使う予定。財産区の収入は木を切りだす事業で今年度4000万円の売上になる。何もなかった

場合は森林経営を継続するのはかなり厳しいと思う。

議員：G コインがこれだけ普及した理由は？

職員：ちょうどコロナ対策の交付金でプレミアムを付けることができた。また、コンビニやチェーン店の協力を得られたのも大きいと思う。

議員：360 店舗が参加しているが、市内のほぼすべてのお店で使えるのか。

職員：全部ではないが、ほぼ使える感覚がある。

議員：協力店舗の負担や手間は？

職員：ほとんどないのではないかと。リーダーの機械は貸出している。また、御殿場市民でなくても、スマホで登録することでだれでも使うことができる。現在、6万2千人くらいの方に利用していただいている。御殿場市民でなくても、観光客や近隣市町の方でもスマホで登録することで利用できる。御殿場市内の商店で市街の方がお金を落としてもらえます。

議員：ふるさと納税は？

職員：大体 17 億円くらい。リゾート施設の商品や体験型のものも人気。ゴルフもある。

議員：市内のゴルフ場はどのくらいあるのか。

職員：10 カ所くらい。

議員：大きな川はあるか？

職員：富士山から流れる川が、市内にちょうど分水嶺があり、相模湾と駿河湾とに分かれている。富士山の噴火の時の避難計画が、分水嶺によって、避難場所が異なっている。

議員：東京ガールズコレクションとの連携をしていくとのことだが、どのような経緯か。

職員：地域循環共生圏の協定を結んでいるグループに静岡フィナンシャルグループが入っており、そこと TGC が繋がっていて、TGC の社会課題の解決をしたいという意向と合致した。

議員：高校生を巻き込んだ魅力発信をしていくとのことだが、どのようなことを考えているか。

職員：TGC とのコラボでは、TGC は高校生にとってすごく魅力なので、TGC のモデルさんに御殿場に来ていただいて、市内の高校生と一緒にワークショップや体験を通して学んでいただく。そして、御殿場市の課題をどうしたら解決できるかを考える機会をつくろうとしている。アントレプレナー教育としても考えていて、課題をビジネスで解決できる力を付けてほしいと思っている。

議員：市内に大学は？

職員：市内には大学はないが、近隣の大学が協力してくれている。

議員：自衛隊があることによる財政的メリットは？

職員：財産区からの繰り入れは 35 億円くらい。8 条交付金と 9 条交付金で 20 億くらい。

【所見】

「富士山麓エコガーデンシティ地域循環共生圏」構想は、御殿場市、裾野市、小山町の2市1町で進めている計画で、静岡県が進める「ふじのくにフロンティア地域循環共生圏」に基づく支援も活用しながら、富士山麓の豊かな自然環境を守り、育て、磨き、脱酸素を実現する持続可能な環境先進地域を目指すという壮大な構想である。

その推進の肝となるのが、御殿場型循環モデルと称する森林経営からJクレジットを創出し、富士山Gコインで脱酸素と経済の好循環を実現するというものである。

御殿場市には、もともと森林組合が財産区からの委託という形で森林経営が継続されていた歴史があり、その活動がそのまま国のJクレジットの制度に適用できるというところがこのモデルの基礎となっている。そして、デジタル地域通貨「富士山Gコイン」により、エコポイントとして市民に還元することで、市民の環境意識向上を図ろうというものである。

富士山Gコインは、御殿場市の独自のデジタル地域通貨であり、プレミアム商品券に変わるポイント制度や独自のマイナポイント制度の活用で利用が広がり、現在は6万2千人の利用者がいるとのことである。人口約8万2千人の御殿場市民の約75%の人が利用していることになる。そして、この富士山Gコインを利用して、子育て支援や地域経済の活性化等の市の様々な施策に活用している。

今回の御殿場市の視察にて、このような先進的な取り組みが実際に進められていることを知り、とても驚いた。森林を管理している財産区があったり、自衛隊の演習場であったりと御殿場市特有の有利な条件があるとはいえ、それを実際に市民に有効に還元でき、また環境保護をはじめとするSDGsの取組みに活かす方策を考えられていることは大変すばらしいと思う。

三田市においても、同じことは難しいですが、三田にある地域の優位性を見出し、国や県の施策と連携させながら取り組める方策を検討していきたい。

調査日時	令和6年5月22日（水曜日）10:00～11:30
視察先	静岡県富士宮市
調査事項	フードバレー構想について
<p>（調査結果の概要）</p> <p>【視察先概要】 人口：124,156人（2024年5月1日） 面積：389.08km²</p> <p>【説明と意見交換】 資料に基づき説明（添付資料参照）をいただいた後、意見交換を行った。</p> <p>●意見交換（主な内容） 盟政會議員（以下、議員とする）：堆肥の補助はどのくらいか。</p> <p>富士宮市職員（以下、職員とする）：金額については資料がないが、1tあたり1,000円以内、1農家につき年額30万円を限度として支給している。対象の農家を限定しており、認定農業者やエコファーマー、有機JAS、新規就農者というような限定は設けている。これは、国の補助とは別枠で市が支給している。</p> <p>議員：富士宮やきそばが全国的に有名になっているが、富士宮やきそば学会を立ち上げた人たちは、食とかマーケティングのノウハウのある人ではなかったのか。</p> <p>職員：もろもと市民ワークショップの参加者の方で、そのような専門家ではなかった。やきそば学会の活動を支えた初代代表とサブリーダー的に活動した人は、偶然だったかもしれないが、市の職員だった。そのため、市との連携もうまくいくことができた。学会のメンバーには様々な職業の方がいて、それぞれの得意な分野で知恵を出し合って活動を成り立たせてきた。</p> <p>議員：現在のやきそば学会はどのような組織になっているか。</p> <p>職員：NPO法人となっている。商工会議所の職員もメンバーに入っているが、専属の職員がいるというわけではない。</p> <p>議員：B1グランプリの成功も素晴らしいが、その主催者とはもともと繋がっていたのか。</p> <p>職員：最初から10団体で構成する実行委員会のメンバーに入っていた。最初のB1グランプリは青森で実施された。そこで優勝したので、次の開催地は富士宮市になったという経緯がある。メディアが全国ネットで報道してくれて、そこでまた優勝したことでさらに知名度が広がった。</p> <p>議員：富士宮市は第1産業が盛んであるが、担い手不足の対策はどのようにしているか。</p> <p>職員：富士宮市全体として、高齢化や労働者不足が他の地域と同様に課題である。移住者で農業をやりたい方を誘致しているが、なかなか進んでいない。特に酪農については、規模は拡大しているが、やっている方はどんどん減っている現状にある。コロナやウクライナの関係で、飼料が高騰していることもあり、飼料の代わりになるものの研究もしながら、補助金も活用して、手探り状態で踏ん張っている。</p> <p>議員：三田市は兼業農家が多い。専業農家と比較して、兼業農家には補助金等の支援がほとんどない。市独自の補助金を作って何とかしようとしているが、うまく進んでいない。富士宮市の場</p>	

合は、フードバレー構想という大きな枠組みで、第1産業の生産物をうまく活用できている。前向きに循環型の仕組みができていて素晴らしいと思うが、何がきっかけでこのようにうまくいっているのか。若い人たちの活躍があるのか。

職員：若い人たちの活躍ももちろんあるが、富士宮やきそばの流れを引き継いだ人たちが2代目、3代目と発展させてきている。

議員：それが一番難しいと思う。

職員：確かに。私も父親が農家であるが、市の職員になっている。簡単ではないと思う。

議員：富士宮市の場合、市全体として盛り上げようという機運が高まっているということが素晴らしいと思う。学校給食における地場産食材はどのくらいになっているか。

職員：35%くらい。若干下がってきている。農業者がそれだけの規模を生産するのが難しい。牛乳も入れてこの数字である。

議員：ふるさと納税の一番よく出ているものは？

職員：紙製品である。製紙会社があるのもあり、上位10位のうち、7つほどが紙製品である。

議員：富士宮やきそば学会が職員のOBが中心とのことで、職員の熱意が素晴らしいと思う。

【見学】

写真参照。

【所見】

富士宮市は、人口約12万4千人、面積約389km²と、三田市よりも少し規模は大きいですが、地理的条件はよく似ている市である。この小さな町のやきそばという大衆食が、日本中で知らない人はいないくらいの知名度を誇り、その誇りから市民総出の「食」を中心にしたまちづくりを推進し、大きな成果を上げているのである。富士山というシンボルの影響もあるが、もともと市民ワークショップから出たアイデアを市職員のOBを中心に、市民の誇りとなるところまで作り上げた情熱とそれを継続できる仕組みとして作り上げることができたところが本当に素晴らしいと思う。

三田市においても、「食」の豊富さという点では引けを取らないと思われるので、この富士宮市の素晴らしい取り組みを参考に、「食」を中心としたまちづくりを是非実践していきたいと考える。今回の視察は、今後の三田市の発展を考えるうえで、大きな希望となるものであり、大変有意義な視察となった。

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)